



HATANISHI

for Peace of mind



みんなが**安心**して集い
これからの時代を生きる子どもたち
を育む学校を目指して

みんなが安心できる学校を目指して

はじめに

世界各地で起こる紛争、異常気象、急速に進む人口減少、AIの急速な発達…。今、様々な不安定要因が世界中で広がり、将来の予測が困難な時代に突入しており、秦荘西小学校に集う児童も近い将来、このような社会へ巣立っていきます。この変化に満ちた社会にうまく対応しながら、自分らしく未来を歩むことのできる力を児童に育ていけるよう、本校では、「未来に花咲く、自律的な児童の育成」という新たな学校教育目標を設定し、令和6年度から新教育課程をスタートさせました。

「自律的な児童」を育成するためには、まず、この学校に集う児童、保護者、教職員が安心して通える環境づくりが重要です。そこで、新教育課程では、これまでの学校の当たり前を見直し、「40分授業午前5時間制」「学年チーム担任制」「教科担任制」等を導入し。その成果

と課題をアンケートから把握し、アップデートを重ねながら、「みんなが安心して通える学校づくり」を現在進行形で進めています。また、「自律的な児童」を育てために、「自己調整力（自ら考え行動し、目標を達成する力）」に着目し、令和6年度より、文部科学省から研究開発学校の指定を受け、東京都目黒区とともに、「自己調整力」に関する研究を行っています。「自己調整力」を育成するため、新教育課程の中では、自ら設定した目標を自分の歩みで達成するための仕組み、時間の保障、体制整備等、様々な工夫がちりばめられています。

みんなが安心して通える環境のもと、自分らしい未来を歩む力を育み、ウェルビーイングを生み出す。秦荘西小学校は、今後も試行錯誤を続けながら、そんな学校を目指していきます。

学校教育目標

未来に花咲く、自律的な子どもの育成

～豊かな関わりの中で創造的に、自己決定をし成長し続ける姿を目指して～

- 創造** 見通しをもって、新しいことに挑戦できる子
- 協働** 伝え合い、認め合い、高め合える子
- 自立** 物事を自分事に考え、自己決定に対して責任ある行動がとれる子

花・実:創造

幹:協働

根:自立



様々な人と関わり高め合う中で、物事を自分事として考え、よりよい未来に向けて自己決定ができる自律的な子どもを育てたい。そして、未来に自分色の花を咲かせてほしい。そんな願いを込めて学校教育目標を立てました。

創造・協働・自律のための学校行事

自律を育む秦荘西小学校の1年

今あるものに「適応する力」より、今ないものに「対応する力」をつけ、新たな価値を創造し、実行し、成長を続ける力をつける教育活動に。

主な年間行事（予定）

	主な行事計画
4月	1学期始業式 入学式 家庭訪問
5月	学年懇談会
6月	音楽集会 プール開き 自主勉チャレンジウィーク 期末テスト
7月	個別懇談会 1学期終業式
8月	2学期始業式
9月	縦割り運動会
10月	運動会 校外学習
11月	持久走大会 自主勉チャレンジウィーク 期末テスト
12月	秦西祭り 個別懇談会 2学期終業式
1月	3学期始業式 百人一首大会 秦西漢字検定
2月	自主勉チャレンジウィーク 期末テスト 六年生を送る会
3月	卒業式 修了式



学校行事

学校行事を「自律的な学びと協働活動の場」と位置づけ、どの行事にも児童の意見を取り入れ、達成感の中で成長を促す機会としています。

自律的な学びと活動の場

としての学校行事



児童会活動

あこがれの高学年が学校文化を紡いでいきます。縦割り活動の中で、学年を超えての交流が生まれ、より良い姿を継承していきます。



自ら考え、計画を立て、友達と共に実践していくことで学びを進め、深めていく。
それができる学校を児童自身が創っていく。

協働の場

校内だけでなく、地域や外部機関、校外の人材とも連携を図り、学びのフィールドを広げ、多くの方と関わり合いながら学びます。



学び合い

共に学び・伸ばし合うために、様々な考えの交流の場や形で対話的な学びの機会が用意され、多様な考えに触れながら学びを深めます。



INPROVEMENT 当たり前を見直し

みんなが安心できる学校を目指して



目指す学校

- 児童が安心して通い、成長できる学校
- 保護者が安心して子供を通わせ、信頼できる学校
- 先生が安心して働き、やりがいを感じる学校

学校の当たり前から見直す

「みんなが安心できる学校」にするために、これまでの学校の当たり前を考え直し、保護者や教員の学校評価、また、児童のアンケート結果をもとに、より良い学校づくりのため学校改革を行っています。この改革によって、より子どもたちに寄り添いながら、子どもたちの自律を促す事ができる、そして、ウェルビーイングの実現に向けて皆が考え行動していくことのできる環境を作っていきます。

時間割	月	日
1		
2		
3		
4		
5		
6		

40分授業午前5時間制

授業時間を40分とし、午前に5時間の学習を行います。午後は20分の学習タイム（秦西タイム）と6校時の学習を行います。集中力を高く保ちながら40分授業を行う「学びの午前」と「活動の午後」と分けたメリハリのある日課です。40分の中で、子どもたちの思考の時間を十分に確保するため、課題解決のための「手がかり」の提示を重視しています。

ここに注目！

- 授業時間を5分短くすることで、午前の落ち着いた時間帯にリズムよく集中して5時間の学習に取り組むことができる。
- 教科の専門性が高まり、質の高い授業を提供できる。
- 放課後に教員が児童の情報交換を密にとることができ、また、授業力向上のための研修会なども行うことができる。
- 教科担任制により、指導教科が絞られるため働き方改革にもつながる。



8:20	朝の会	午前5時間
8:30	1時間目(40)	
9:10	2時間目(40)	
10:00	3時間目(40)	
11:00	中休み	
11:00	4時間目(40)	午後5時間
12:25	5時間目(40)	
	給食	
	昼休み	
	そうじ	
14:10	秦西タイム(20)	午後5時間
14:50	6時間目(40)	
15:05	帰りの会	
	下校完了	
	放課後	



居場所作り

教室に入りにくい児童には、自分のペースで教室に入っていけるよう、校内適応指導教室「オアシス」を開設しています。



40分授業
午前5時間制

01

02

教科担任制

学年
チーム担任制

03

04

居場所作り

40分授業によって生み出した時間の活用

40分授業になることで生み出された時間（5分×6コマ/日）年間約130コマ

- ①学習の自己調整力の育成
- ②生活の自己調整力の育成
- ③自治活動
- ④探究学習
- ⑤教員裁量の時間

これまでのモジュールの時間を廃止するとともに、日課の見直しによって
下校時刻を**25分**早める

自己調整力の
育成

教員の
研修の時間
情報共有



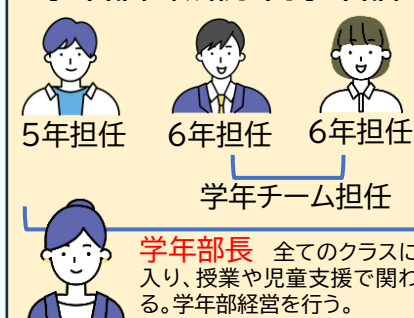
学年チーム担任制

朝の会や給食、帰りの会など、担任業務を1週間を目安にに学年団の教員が交代して行います。家庭訪問や個別懇談会は実施時に担任業務を担当している教員が行います。多くの目で児童の様子を見ることができると共に、担任が固定されないため児童の自律が促されます。また、学年部長を置き、学年部での支援体制を整えることで、学年部として組織的な教育活動を展開します。

ここに注目！

- 担任の経験やスキルの差が埋まるため、学級・学年経営が安定する。
- 学年（部）経営の意識が高まり、統一した指導ができる。
- 子どもたちが複数の先生の良さを取り入れることができ、特定の担任に依存しない自律的な子の育成が期待できる。
- 多くの目で子どもを見ることができる。
- 子ども（保護者）にとって相談したりできるチャンネルが増える。

学年部組織(例:高学年部)



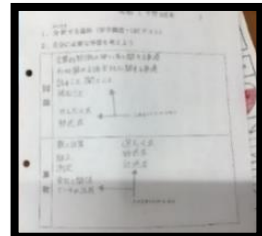
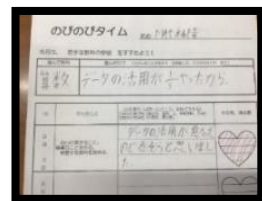
子どもたちの将来のため 自律を支える本校の取り組み

「自律」を支える 自己調整力の育成

今後、子どもたちは長い人生を歩む中で、「状況を把握し、持てる情報から最適解を導き、見通しをもって修正しながら目標達成に向かって進む力」が必要になってきます。この力を秦荘西小学校では、「自己調整力」と定義しています。普段、知らず知らずに行っている自己調整を見える化・意識化させることで、より自己調整力を育てようとする取組を本校では、組織的にを行っています。

のびのびタイム 自己選択学習

学習において自分の力をさらに伸ばしていけるように、火・木曜日の短時間学習の時間を「のびのびタイム」と位置づけ、自己選択学習を行っています。「自分の得意を伸ばそう」「自分の苦手を克服しよう」など、1か月ごとにテーマを設定し、そのテーマに基づき、子どもたちは自分の学習を計画しています。活動後は、毎回、振り返りを行い、次回以降の自分の学習を修正できるようにし、絶えずPDCAを活動の中でも意識化できるようにしています。また、計画・振り返りカードは、各教室の廊下に掲示し、友達の学習方法を参考にできるようにしています。この「のびのびタイム」での自己選択学習で自分の得意分野や自分に合った学習方法を見つけてほしいと考えています。



学習の自己調整

マイプラン学習 単元内自由進度学習

単元内の決められた学習内容を、自分で立てた学習計画にそって自分のペースで学びを進める活動です。教材、資料、時間、人など周囲の情報・資源・環境をうまく活用し、自己調整しながら、自律的な学び手を育みます。

生活の自己調整



自律

自治の自己調整

秦西祭り

各学級で、楽しいお店やブースを出し、全校で回り楽しむ児童会行事の祭り。児童からの提案で、地域の方やPTAを巻き込んだ祭りに進化しています。

学校行事の提案



学校行事を子どもたちが提案し、広報します。

生活プランニング

生活においても自分の力をさらに伸ばしていけるように、金曜日の短時間学習の時間に「生活プランニング」を行っています。週末の生活計画を立てる「週末プランニング」は全校児童が実践し、1週間分の家庭学習の計画を立てる「学習プランニング」は高学年が実践しています。

週末プランニング

「週末の過ごし方の計画とその振り返り」を継続して実践することで、生活の中での自己調整力を養っています。計画表は保護者にもサインやコメント等の協力をお願いし、学校と家庭とが連携して子どもたちの生活の中での自己調整を見守っています。



学習プランニング

高学年は、1週間の家庭学習のプランニングをします。1週間分の宿題を児童に提示し、児童は自身の放課後の予定や自主的な学習計画を考慮しながら宿題を配分します。1週間という期間の中で、生活と学習を一体的に考え、修正を加えながら実践していく力を養います。

自治の中での自己調整

本校では、児童の自治活動を大切にしています。主に高学年児童が担い、学校運営の基盤となっている委員会活動とは別に、より自由度の高い自治的活動を充実させています。特に、校内ボランティア活動が充実しており、やってみたいことは仲間を集めてボランティアチームを立ち上げ、全校に提案することもあります。自分たちのことは自分たちで決めて、自分たちで運営するという風土が作られています。また、隔月で縦割り掃除を実施し、6年生児童が下級生を見守りながら掃除に取り組み、掃除後には振り返りを行います。

各学級においても、学級裁量のもと、係活動を充実させ、「きらめきタイム」を活用して子どもたちの自由な発想から生まれる活動を展開しています。特に、秦西祭りでは、学級ごとに全校をTのしませる規格について子どもたちが話し合い、準備を進め、当日のブースを運営します。

児童による日課の改訂



令和6年度、子どもたちが新日課案を考え、全校への説明、投票を経て、日課の改訂を行いました。

縦割り掃除



縦割り班で協力して学校をきれいにします。

自律的な学びのための 特色ある学校づくり&教育活動

自己調整を支える 学校環境



情報を
子どもたちに
渡すことから

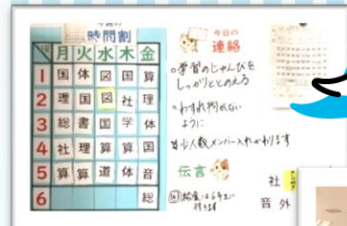
上学年から学ぶ



上学年と下学年が学びの場で関わる機会を多くとるようにしています。上学年から分らない学習内容を直接教えてもらう事もあれば、自己調整の方法や自主学習の仕方を学ぶこともあり、これらは自分のこれまでの枠を越えた学びにつながっています。また、間接的にも学ぶことができるよう、自己調整の過程や見本となるノートを廊下に掲示しています。下学年だけでなく、上学年も学びの多い取り組みとなっています。また、ボランティア活動など異なる学年での活動も盛んで、共に学び合う事ができる環境が作られています。

上学年と共に学ぶ

自分から情報を得る
ための掲示番



学習の参考に
見本となるノートの
掲示



あこがれを生む
自主的な活動の紹介



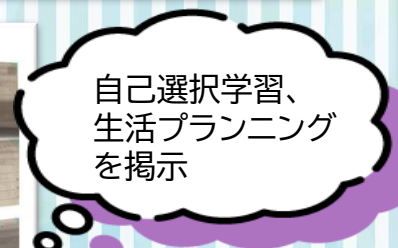
各学年の
総合的な学習の
時間 実践紹介



自分の健康の自己
調整のための
保健掲示の充実



自己選択学習、
生活プランニング
を掲示



先生たちからの
応援メッセージ



休み時間に使える
自習室や
会議室の開放



秦西タイム&きらめきタイム

秦西タイム

40分授業になることで生み出された時間を使い、毎日20分間の「秦西タイム」を設定しています。この時間は自己選択学習や生活プランニングなど、主に自己調整力を高める活動や学習を行っています。

	月	火	水	木	金
低学年	学級裁量の時間 (教科外学習)	のびのびタイム (自己選択学習)	出前読書 学級裁量の時間	読み聞かせ(1年) のびのびタイム	プランニングタイム
中学年	国語 漢字学習	のびのびタイム (自己選択学習)	出前読書 国語(漢字学習)	のびのびタイム (自己選択学習)	プランニングタイム
高学年	国語 漢字学習	のびのびタイム (自己選択学習)	出前読書 国語(よよシート)	のびのびタイム (自己選択学習)	プランニングタイム

高学年では、生活プランニングの他に1週間の宿題計画を立てる学習プランニングも行っています。

きらめきタイム

本校では、各教科を標準時数に合わせて計画的に進めることで、年間余剰時間を「きらめきタイム」(単位時間40分)とし、教科の枠を越えた創造的な学習活動を行っています。

- ・教科の学びを生かした探究活動
- ・学級自治活動
- ・行事に向けた取組
- ・心の教育(人権学習等)

等、学級裁量で実施しています。

探求学習

本校では「総合的な学習の時間」を前期、後期の2期制とし、前期は地域学習という大きなテーマを設定し、全員で共有して学習を進めます。後期は探究学習として、児童それぞれが自分が興味をもった課題に対して、与えられた時間の中で学びを計画し、課題解決に向かって学習を進めていきます。前期に課題設定や課題解決の方法などの学び方を学び、後期に自分自身の定めるテーマに合わせて実践していきます。ここで各教科の自由進度学習や自己選択学習等の様々な取り組みによって身につけた自己調整力を活用します。

また、「きらめきタイム」を使い、各教科での学びの発展学習として探究学習を行うこともあります。児童の「もっと知りたい!」が原動力で生まれる学習です。



図書館との連携

本町では図書室に町立図書館所属の図書指導員が常駐しており、図書館と連携し、子どもたちのへの資料提供など、学びをバックアップしています。



本校ボランティア活動は
令和5年度滋賀県弘済会
教育論文教育長賞を受賞

VOLUNTEER

あたたかい心で つながりと広がりを生み出す

ボランティア活動



子どもたちが、学級・学年を越えて活動を広げ、自己有用感を自らの行動により得る活動として「校内ボランティア活動」の制度を整えています。「学校やまわりの人のためになること」をテーマに、自らが発案し、計画を立てて実践します。同じ志をもった仲間が学年を越えて集まり、共に自己調整をしながら運営しています。子どもたちが自走するこの活動は、学校を明るくするとともに、子どもたち自身を磨いてくれています。さらに、これらの活動は、学校に「あこがれ」の気持ちももたらしてくれています。また、地域の方を巻き込んだ活動も生まれ、学校と地域を結び付ける役割も担っています。



ぶどうプロジェクト



災害復興募金



長期休みの生活伝え隊



でっかい学校スローガン



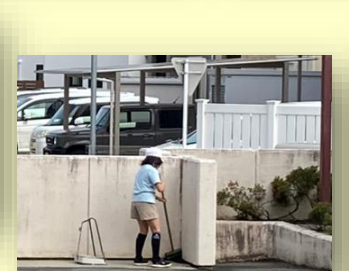
雨の日・猛暑日 居場所プロジェクト



あいさつボランティア



秦西祭り実行委員会



掃除ボランティア



勉強教え隊



音楽集会運営ボランティア

💡 などなど、他にもたくさんの
ボランティア活動が生まれています！

校内ボランティア活動の仕組み



スタンプカードをもらう



活動する



ボランティアカードをもらう



校長先生からスタンプ

あたたかい
心の
見える化

B A S I S

安心を生み出す 制度を見直し、作り出す

秦西スタンダード



委員会での見直しの様子

秦西スタンダード もくじ	
1. 令和6年度の目録表	1
2. 令和6年度下校時刻(学年別・曜日別)	2
3. 学校生活全般のやくそく	3
4. 校内での生活について	4
5. 学習用具のやくそく	7
6. 休み時間の過ごし方について	10
7. 給食の時間について	12
8. そうじの時間について	14
9. 家庭学習について	16
10. 図書室より	17
11. 保健室より	18

「自律的な児童を育てる」という学校目標を具現化するために、このスタンダードに児童の声を反映させながら、改訂していく。担当箇所は以下の通り

- ・学校生活のやくそく(運営委員)
- ・学習用具のきまり(放送委員)
- ・外遊びのきまり(体育委員)
- ・そうじのきまり(環境委員)
- ・図書室のきまり(図書委員)
- ・保健室のきまり(保健委員)
- ・給食のきまり(給食委員)

年に一度、6月の委員会でも担当箇所を検討し、児童の修正希望箇所があれば、その都度、児童と教員で協議し、適宜、添削に改訂していく。

保護者や児童へのアンケート結果から、先生や学級によってきまりが変わってしまう現状に不安を覚えているという声が寄せられ、また、教科担任制や学年チーム担任制を行う上でも、学校として様々なきまりを統一する必要が生まれていました。そこで、学校生活に必要なルールを整理し、内容毎に教員がチームに分かれて分担して検討し、「秦西スタンダード」としてまとめました。このルールは定期的に児童と共に見直しを行うこととし、児童の委員会活動の中で、関連するきまりの見直しを行っています。また、新たなきまりを作る必要が生じた際にも、児童が、きまりの作成会議を開いて追加していく。自分たちの生活に関わることは自分たちで決めていくという自治的な取り組みとなるようにしています。



全校一斉道徳

本校では毎週水曜日の5校時を全校一斉道徳を実施しています。全校で共通して取り組むことで、道徳教育への意識が向上し、児童や教員の中で道徳科の話題が増えています。多くの教員が道徳科を通して様々な学級の児童とかかわったり、各教員のもつ価値を広げたりすることも可能となりました。また、一斉に取り組むことで時数の量的確保と授業の質的向上にもつながっています。保護者の関心も高く道徳教育推進の力となっています。

その他の本校の道徳科の取り組み

- 道徳コーナーを職員室に設置。 ○道徳通信の発信。
 - 道徳科の研修会の実施による「考え、議論する授業」への質的転換。
 - 道徳科の挿絵、板書の写真の保管
 - 道徳科でため込んだ実践意欲を発揮できる場の確保(ボランティア活動・学校運営)
- 以上のことを取り組むことで道徳教育を推進し、児童の思いやりの心や自律する力をつける手立ての一助としています。



みんなで行う仕組み作り

地域との連携に目を向け、積極的に活動をし、発信していくことで、地域のあたたかい目が学校に向き、多くの地域の方々が関わってくださっています。地域の方に支えてもらうだけでなく、共に「地域を明るく元気にしていく」という思いをもって様々な活動を進めています。



「学校と地域の協力会議」
一緒に地域を明るく元気にしたいという思いから、地域の方にも参加いただいて、課題や方策を出し合いました。多くの地域の方に参加いただき、回を重ねる毎に新たな取り組みが生まれていきます。



子どもたちの提案が実現。
地域の方の秦西小祭りへの参画



地域との連携



中学校区連携

校内の児童という視点ではなく、中学校全体を見ていくこと重視し、校種を超えて校内研究会に参加したり、合同の研修・交流会を開いたりしています。また、自主学習ノートの活用のための中学校区共通のリーフレットを作成し共通実践にもつなげています。



中学生の職場体験の受け入れ



中学校区共通の自主学習リーフレット



町との連携

社会科や総合的な学習の時間の学習において、町の様子や現状について出前授業をしていただくなど、協力していただいています。また、校舎の設備の改修工事の際には、学校をもっと良くしたいという担当者の思いを全校児童の前で語ってもらいました。町行政と多くのことで連携しながら、教育活動を進めています。

6年生の総合的な学習の時間では、町づくりの提案を行った。愛荘町が「愛荘みらいプラン」事業としてタイアップしていただき、児童と町とが協働し、プランの実現に向けて学習を進めました。



全職員で取り組む



改革を進める教職員の動き

学校教育目標の改訂

学校改革を進めるに当たって、一番に行ったのは学校教育目標の改訂です。これからの変化の大きな社会に対応できる子どもの育成、そして、より具体的な指針を示せるよう、教職員からアンケートを取り、これからの本校教育で大事にしたいこと(キーワード)を集め、話し合いを進めることで決定しました。

改革を進める3部会

改革を進めるに当たり、「自己調整力」「校内研究」「自治・環境」の3つの部会を作り、リーダーを中心に改革案をまとめ、提案し実行しています。提案が通り、実践しながらも、定期的に見直すことも重視しています。この3部会は、教職員全員のボトムアップにより前進させることのできる改革の仕組みです。

秦西スタンダード作成

学級を越えて指導を行う体制では、共通のルールが必要です。学用品や給食、遊びなど、学校生活に必要なきまりを、職員がグループで分担しました。

自己調整力育成のために

自己調整力を高める取り組みについても、定期的に見直しを行い、新たな方策が職員から提案され、現在進行形で実践が深化しています。

校内研究会

40分授業をより効果的なものにするために研究を進めています。子どもたちの思考を促し、協働的な学び、個別最適な学びを促す学習展開や手法を全教科で研究しています。課題解決に必要な「手がかり」を提示することを共通の取り組みとし、各教科毎の手がかりの提示内容について考えています。

てがかり

黒板掲示用のカード



自主研修会

本校職員や近隣学校の教員を講師として自主的な研究会を行っています。生み出した時間により下校時刻を早めたことで、時間に余裕ができ、研究会をもちやすくなりました。教員自身の学びや経験をシェアしていく貴重な機会となっています。



先進校への視察

多くの本校教員が教育先進校へ視察に行き、学びや見識を広げています。先進校で得た教員の感動が、次の取り組みにつながるという好循環を生んでいます。

視察の受け入れ

全国から視察の受け入れも行っています。職員から話を聞いていただくこともあり、視察に来ていただくことで誇りをもって本校教育活動にあたることができます。



だれもが働きやすい職場に

本校の働き方改革

本校では、働き方改革は「時間のゆとり」と「心のゆとり」で考えています。子どもたちに向き合い、質の高い教材を準備する時間を確保するだけでなく、教職員もワークライフバランスを維持し、安心して働くことのできる職場を目指しています。

時間の面

- ・下校時刻を25分早める
- ・教科担任制により持ち教科を縮小
- ・持ち時数を縮小
- ・町内連携による事務作業の軽減
- ・職員会議を減らす(春休み・夏休みのみ)

心の面

- ・教科担任制、学年チーム担任制、学年部長制により、学級の問題を一人で抱え込むことなく複数で対応
- ・職員間の情報共有や交流の時間が確保できるため、OJTが活性され、自身の悩みや課題を相談しやすい環境作り
- 経験の浅い先生の安心感が大きく高まっています

校内研究の工夫

はんぶん公開授業

教科担任制であること、また、全教科での40分授業の研究をしていることから、特定の教科の研究授業だけでなく、様々な教科を見比べることも必要となる。そこで、半分のクラスで公開授業を行い、もう半分のクラスの先生は参観者となる研究授業を行っている。

板書提出日

月に2度板書提出日を設け、授業後の板書を共有している。「手がかり」の効果的な提示方法や内容、児童の思考の様子を見せ合うことで授業力を高めている。

板書de授業研究会

全員が一斉に公開授業を行い、授業後に板書の写真を撮っておく。講師の先生からの講評の後、板書を見せ合いながら授業について語り合う。共通のテーマを教科を越えて授業参観できる。

変革による教員の声

学年チーム担任制

担任を交替することで、それぞれの担任の良さを学年全体に広げられているように感じます。子どもたちも、複数の担任が関わることで安心できているのではないのでしょうか。年度当初は、情報共有の方法に試行錯誤しました。放課後は情報共有を密にすることで、学年部全体を見ていく意識が強くなりました。

学年チーム担任制のおかげで、学級経営を安心して行うことができている。1週間毎に担任を交替するので、相担任の先生の実践を間近で見ることができてたくさんのことを学べます。経験が少ない私にとって、とても心強いです。今は頼るばかりではなく、それぞれの強みを生かして、学年経営をしています。

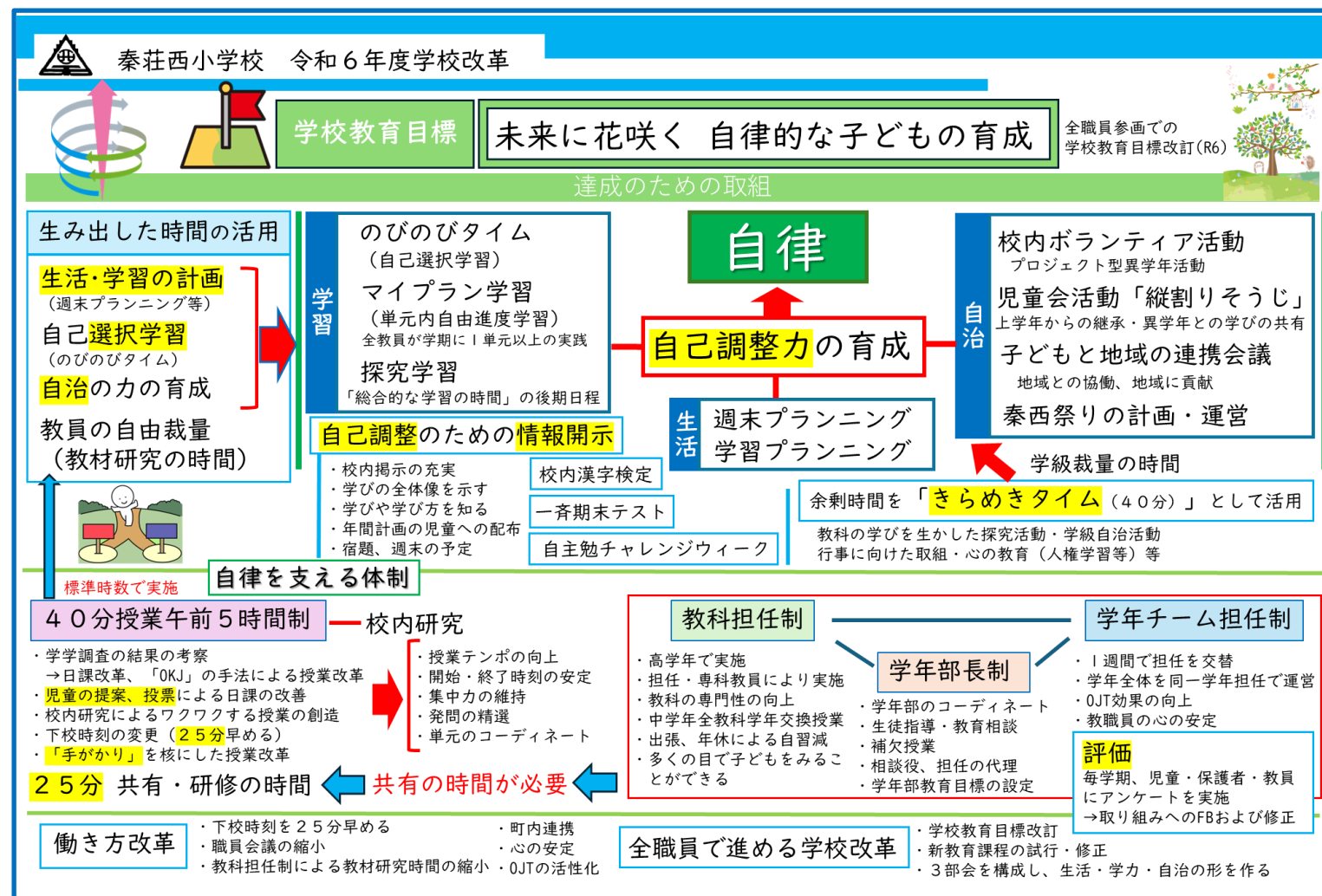
教科担任制

指導する教科が絞られ、1つの教科の教材研究にかけられる時間が増えました。また、複数学年の授業を行うので、教科の系統性を意識するようになり、授業の質は上がったと感じます。多くの児童を見られる半面、児童理解を深めることには苦労します。

これまでより授業が5分短くなった分、授業の進め方の工夫が必要になってきます。子どもたちの思考や交流の時間を確保できるよう、ポイントを絞って授業するようになりました。授業のテンポが良くなり、子どもたちの集中力が高まったように感じます。

40分授業 午前5時間制

自律のためのイメージマップ



本校の取り組みに関するQ&A

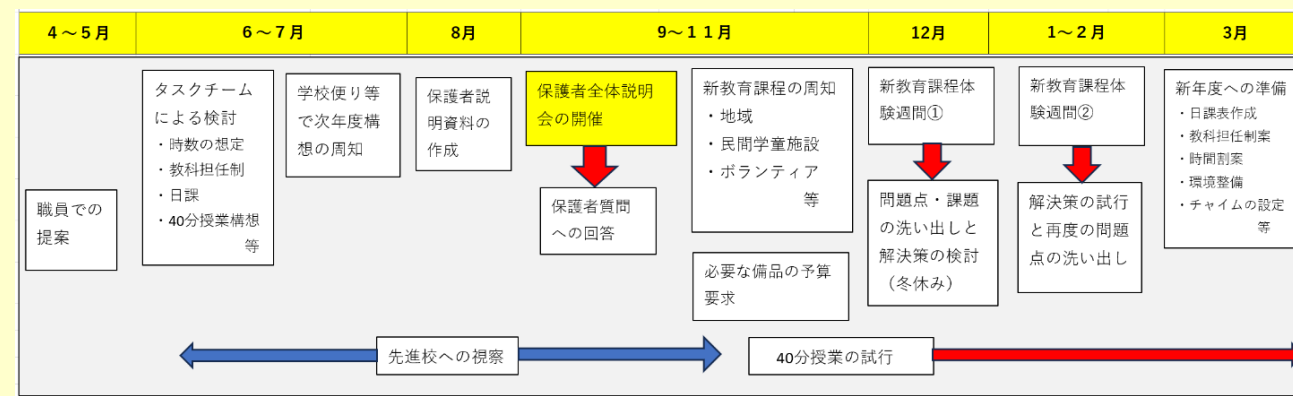


年度当初から日課や指導体制について大きく変更されましたが、児童や教員に戸惑いはありませんでしたか



改革スタートの前年度から計画的に進めていたため、大きな混乱はありませんでした。40分授業の進め方や具体的な日課、指導体制等は前年度までに確定し、新教育課程体験週間を設定し、40分授業や午前5時間制等を試行しました。また、ここでも出た課題や問題点を洗い出し、新年度に備えることで円滑に移行できました。下校時刻が早まるため2月上旬に保護者説明会を開催しましたが、可能であれば学童保育所への入所手続きが始まる前の前年度9月ごろに保護者への説明会を開催することが理想だと考えます。

→スケジュールの一例



大きな学校改革をされていますが、どのように進めましたか



学校に集う児童、保護者、教員が、「安心して通うことのできる学校」を目指して、様々な改善を進めています。具体的には、児童や保護者、教員等のアンケートから現状の問題点を洗い出し、大きな課題をリストアップします。そのリストに挙げられた問題点ごとに職員でタスクチームを作り、問題解決への方策を考え、職員会議で提案する形で複数の改革を同時並行で進めています。タスクチームによるボトムアップ型の問題解決を図ることで、職員全員が当事者として、よりよい学校づくりに参画できるよう、心がけています。



教員にとって授業時間を45分間から40分間に5分短縮することは大きな変更ですが、授業のどの部分を削減しているのですか



「どの部分を5分削減するか」より、「40分間で何をどのように教えるか」に焦点をあて、授業づくりを進めています。そのため授業前に本時で教えるべき内容をしっかり把握することは必須です。その上で、その内容を理解させるために重要な「手がかり」を事前に練り、問題解決の見通しとして提示することで教室にいる児童すべてが自力解決時に主体に考え、本時の学習内容を理解する授業を目指しています。



RECOMMEND

自律的な学びのための 特色ある学校づくり&教育活動



本校では、自律的な子どもの育成のために様々な取り組みを行っています。子どもたちが自主的に、また創造的に活動を進めていくための環境を用意すると共に、子どもたちがつながりの中で自己決定し成長し続ける姿を求めていくための教育活動を進めています。子どもたちの可能性を広げていくため、子どもを中心とし、教員、家庭、地域がともに学校づくりを進めていきます。

01 ボランティア活動



児童が自発的にボランティア活動を行う事のできる仕組みを用意することで多くの児童が自発的に活動を進めています。自分の思いを形にしたり、友達のつながりを作ったりする場としても機能しています。

活動例 雨の日プロジェクト あいさつ運動 グランド清掃 勉強応援活動 廊下歩行の呼びかけ 落とし物管理 ぶどう復活プロジェクト 安全なくらし伝え隊 など

02 自己選択学習 AIドリルの活用



生み出した時間で学習内容を自己決定し、個別最適な学びを進めています。積極的にAIドリルを活用し、それぞれの児童が学習の定着度から学習内容を自分自身で決めて行います。

AIドリルは、各自の解答状況や誤答の内容により、必要な学習内容を適切に選択し、児童に提供します。その結果、児童自身の力で必要な学習を進めることができます。

03 みんなが参加し考える授業



これまで、子どもたち同士の対話を大切に学習を進めてきました。全国学力・学習状況調査や滋賀県の学力調査の結果より、どの学年にもいくつかの学力層があることがわかりました。そこで、本時の目標を達成するための「手がかり」を自力解決前に提示する、「みんなが参

加し考える授業」を実践します。先生が必要な知識をわかりやすく児童に与え、どの児童も考えるために必要な材料をもって楽しく考えることができます。

04 地域との連携活動



学校と地域が連携し、ウェルビーイングの実現を目指しています。昨年度より、子どもたちと地域の方が共に意見を交換し合う「地域・学校を元気にする会議」をスタートさせました。地域に支えられる学校から、地域と共に協力し合える学校へと

変わっています。ボランティア活動や学校行事で地域の方と子どもたちの交流が増え、児童の活躍のフィールドが広がっています。

05 児童会活動の充実



上学年への「あこがれ」と下学年に対する「思いやる気持ち」を醸成することにより、学年を超えたより良いつながりと学校文化づくりを進めています。縦割り掃除や秦西祭りなど多くの場で児童会活動の充実に取り組んでいます。



授業の充実やより良い子どもたちの活動を支えるために、教員の自主的な研修会を年間を通して行っています。また、このような研修の時間を生み出すために業務の見直し等の工夫も行っています。

06 地域ボランティア室の設置



地域の方と児童の交流の場、また協働の場としてボランティアルーム「ひだまり」を開設しました。学校・地域との協働の拠点としてはもちろん、様々な課題を抱える児童の居場所としても機能しています。

最新の情報や、これまでの取り組みはこちらをご覧ください。

秦荘西小学校HP

https://www.town.aisho.shiga.jp/school/04_hatanisisyou/index.html

